



来月号の「ちーたん日記」もお楽しみに！

ちーたん日記

6月29日（土）「ほたる」

青垣町遠征へ ホテルの観覧会に行ってきたよ。今出瀬水公園付近はゲンジボタルとヒメボタルを同時にみる事ができる。市内でも数少ないところなんだって。

夜8時 すっかり日が暮れて足元もおぼつかなくなってきたら、川と山に挟まれた道を歩いて行くと、川側にはゲンジボタルがふんわりと優雅に飛び交い、山側にはヒメボタルがまるでダイヤモンドの小さなカケラを真つ暗な山の

中に散りばめたとようにキラキラ輝いていたよ。

に囲まれた幻想的な空間だったよ。今出のゲンジボタルとヒメボタルは、この一本の川によって決して混ざり合うことなく暮らしてきたんだって。自然の不思議な力を感じるよ。

でも ホテルたちが地上に出て輝いていたら、さくはかない命を守ってきたのが、今出の熊野神社の森なんだよ。人が荒らすことのない鎮守の森で、ホテルたちは静かにその命をつないできたんだね。ホテルたちがいつまでも住めるように、川や森をみんなで大切にしていきたいね。

丹波の恵み

第2回 【活用資源】ブルーベリー、丹波黒大豆

市では、丹波市の地域資源等を活用した新商品や新サービスの開発を支援するために、「地域資源活用促進等事業費補助金制度」を設けています。

平成24年度にこの制度を活用して、新たに開発された新商品や新サービスをシリーズ（全7回）で紹介します。

ブルーベリー & 黒豆酢

市内で栽培されているブルーベリーは、市の地域資源として兵庫県指定を受けており、近年、生産者も増え、作付面積・生産量とも増加しています。

（株）やながわでは、このブルーベリーを活用して、丹波黒大豆でつくった酢を合わせた、希釈タイプの新しいドリンク商品を開発。すっきりした飲み口のフルーツビネガーで、牛乳などとの相性も抜群です。

新たに開発した商品のPRや販売を通じて、特産品としての認知度を高め、丹波特産品の新たな市場開拓と生産・消費の拡大を促すことにより、地域の活性化につなげていくことをめざしています。

※地域資源：国の認定を受けた県の基本構想に掲げる農林水産物、鉱工業品、鉱工業品の生産に係る技術及び観光資源

【事業者概要】

株式会社やながわ
（夢の里やながわ）
【所在地】
春日町野上野 920
☎ 74 - 0123

【HP】
<http://www.tamba-yanagawa.co.jp/>



「ブルーベリー&黒豆酢」



ブルーベリーと砂糖を煮立て、黒豆酢を合わせます

丹波の魅力発信をお手伝い！ 「ちーたんブックカバー」



ちーたんのブックカバーが完成しました！

丹波市や丹波竜を広くPRすることがねらいです。

7月上旬から、大手書店「紀伊国屋」の梅田本店やグランフロント大阪店、神戸店など、9店舗で本を購入するとブックカバーを入手することができます。

☎ 77 - 1887

きらめき企業 Vol.29

【会社概要】 柳瀬 株式会社

■所在地 兵庫県丹波市山南町谷川 1385 番地

■電話番号 77 - 2151

■ホームページ <http://www.yanase-saving.com/>

■主な事業内容 研磨材の製造販売

■従業員数 106 人

わが社のきらめく「丹波人」

業務部の青木さんは、企業紹介セミナー（※）と会社訪問で、あたたかい職場環境に魅力を感じ入社したそうです。先日、同セミナーで母校の後輩に向けて仕事のやりがいについて話をされたんだとか。

製造部の山口さんは、「信頼している先輩が昇格し、自分のことのようにうれしかった」と話してくれました。「会社は一つの大きな家族。取材を通してそんな印象を受けました。」



左から、青木優佳さん（20）、山口拓人さん（21）



中央の商品は「ミニローロ」です！
自宅で簡単に本格的なネイルができますよ。

※高校生を対象に地元企業の魅力を紹介するセミナー

磨きのパイオニア 柳瀬 株式会社



『丹波のきらめき企業』は、最近、暑さに苦しんでいる西田が、市内企業の“きらめきポイント”をレポートします。私が持っているのは新商品の「極メタル」です！どの面でも磨き上げることが可能な研磨材です。

「研磨材」と聞いて、みなさんはどのようなものを想像するでしょうか。今回は、研磨材の専門メーカーで、山南町谷川にある柳瀬（株）の本社工場取材してきました。

★意外と身近な研磨材

昭和47年に山南町で創業。製造している研磨材は、金属やガラスなどを切ったり、削ったり、車を磨いたりする際に使用されます。約3万5千種類の商品が存在し、多品種小ロットにも対応できることが同社の強みです。私たちの暮らしに身近なものとしては、草刈り機の刃の部分や女性が爪を磨く商品などにも使用されているそうです。

★時をともに刻む地元従業員

元雇用が丹波への恩返しに、なると考え、本社のほとんどの従業員が市内在住者。「会

社は従業員のものなのだから、会社の利益は従業員に分配したい。私自身、会社を支えてくれる従業員との時間を大切にしたいんです」と柳瀬社長。仕事以外でも慰安旅行やバレーボール大会など、さまざまなイベントを企画し、社内の調和を何よりも大切にされているようすが伝わってきました。

★丹波から世界に

最近では、広島・仙台に出張所を開設し、世界にも目を向けはじめている同社。「それでも、あくまで拠点は丹波。丹波から世界に発信し続けたい」と柳瀬社長は話します。その言葉からは、「海外で通用する会社が丹波にある」ことを示したいという強い思いを感じることができました。柳瀬の磨きあげられた熱い思いが世界中に届く日が楽しみです。